

第8回小平市長期総合計画基本構想審議会 会議録（要旨）

開催日時	令和2年7月16日（木）午後3時30分から午後4時35分 ※ウェブ会議システムで参加の委員（2名）と会場をモニターで中継した。
開催場所	小平市役所5階 504会議室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・委員 18名 高橋裕子会長 栗山丈弘副会長 伊藤規子委員 加藤順子委員 神山敬次委員 川口幸子委員 川地保宣委員 市東和子委員 鈴木庸夫委員 竹田広輝委員 出口みちたか委員 橋本直子委員 古川満久委員 細江卓朗委員 松尾早智子委員 松田肇委員 宮奈彰男委員 矢口誠委員 ・事務局 3名 企画政策部長 企画政策部総合計画担当課長 企画政策部政策課長補佐兼総合計画担当係長
会議次第	1 （仮称）小平市第四次長期総合計画の素案について
配布資料	<p>当日配付資料</p> <p>資料1 （仮称）小平市第四次長期総合計画（素案）について</p> <p>資料2 （仮称）小平市第四次長期総合計画（素案）</p> <p>資料3 （仮称）小平市第四次長期総合計画（素案（案））修正版からの修正内容</p> <p>資料4 第四次長期総合計画基本構想特別委員会要旨</p>

開会	
1（仮称）小平市第四次長期総合計画の素案について	
会長	<p>本日は新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る措置として、スクール形式での開催とし、傍聴は中止とする。</p> <p>これまでの審議を踏まえ素案としてまとめた内容について、今後市民の皆さんから御意見を募集するにあたり、最終の確認を行っていただく。</p>
事務局	資料1、2、3、4に沿って説明。
委員	39ページの自治体経営の視点に、「小平第十一小学校は、地域対応施設を小学校へ複合化する初めての事例」とあるが、小平第六小学校は社会教育施設が併設された複合施設であり、学校と地域の交流が創出されている。小平第十一小学校が初めての事例という表現はいかがか。
事務局	公共施設マネジメント基本方針を策定してから取り組んでいく初めて事例という事になるが、いただいた御意見を踏まえ、関連部署とも調整したい。
委員	7ページの項目名を「鉄道駅」としているが、39ページのまちづくりの視点で、「市内に7つの鉄道駅があるという特性をいかして、駅周辺地域の商店会など様々主体と連携し、交流とにぎわいの創出を推進します。」とあるので、鉄道駅が7つあるという地理的要素だけだと物足りないと感じた。
事務局	これまでの市民意見で、都心へのアクセス性の良さが多く上がっており、「交通」と

	<p>いう項目名で小平市の特性として掲げた。この間、新型コロナウイルス感染症の影響により、テレワークやオンラインの活用が進み、都心へのアクセス性だけでなく、駅周辺で基本的な生活環境が整う環境が改めて見直され、鉄道駅があることそのものが特性であるという事から、項目名を「鉄道駅」と見直した経緯がある。</p>
委員	<p>「鉄道駅と地域づくり」などのような項目名にするとよいのではないかと感じた。</p>
委員	<p>ここは小平市の特性として「地勢」、「自然環境」、「鉄道駅」、「学園都市」、「地域資源」、「学園都市」、「協働の気運」という項目名で示しているの、「鉄道駅と地域づくり」とするなら、他の項目名も全て見直すことになるのではないかと。</p>
委員	<p>「鉄道駅」ということで了承した。</p>
委員	<p>19 ページの冒頭で感染症のパンデミックについての記述があるので、その下の表にも今回の新型コロナウイルス感染症を入れるとよいのではないかと。</p>
事務局	<p>元々「自然災害や気候変動に対する安全安心への対応」という項目名としていたが、新型コロナウイルス感染症による暮らしや経済への影響を受けて、項目名を「地球規模の危機への対応」に変更し、内容にも感染症について盛り込んだ。元々記載していた自然災害や気候変動という背景から、38 ページの基本目標横断プロジェクトである「自助・共助・公助により、防災減災を強化します」につなげていたことから、感染症は分けて表にしたという経緯がある。</p>
委員	<p>了承した。</p>
委員	<p>19 ページに東日本大震災以降の主な自然災害の表があるが、まさに今、九州の方で豪雨があり、記載できないか。</p>
事務局	<p>7 月豪雨について今後どうなるか分からない部分もあり、現時点で追記することは難しいと考えている。しかし、記憶に新しい災害を共有することは重要な観点であり、パブリックコメント後に計画案として整えていく際に追記することについて検討したい。</p>
委員	<p>17 ページの「経済財政状況の変化」の中で市民税が 24 億円減少し、社会保障関係費が今後 108 億円増加するとの説明がある。24 ページの行財政再構築プランとの関係にもつながることであるが、今後の市の財政を圧迫する大きな要素であり、社会保障関係費を減らす努力まで触れた方がよいのではないかと。</p>
事務局	<p>「経済財政状況の変化」では、今後の見込みを示している。それに対する策ということになると、分野別の施策を今後どう取り組むかということになるかと思う。例えば 31 ページの方針 5 の介護、保険福祉、生活支援の中で、自立した生活を送れるようにすることや、健康保持、介護予防の取組を進めることが社会保障関係費の抑制につながっていくことになると考えている。</p>
委員	<p>素案（案） 修正案に対して私が提出した意見はほぼ取り入れていただいた。前回の 6 月 11 日の審議会では、30 ページの「令和 14 年のありたい姿」に「年齢の違い、性別の違い」ではなく、「年齢の違い、性別や性的指向の違い」としてはどうかと投げかけ、審議会の中で議論していただいた。最終的に「性の多様性」という表現になったのは残念であるが、この件を市議会特別委員会の中でも取り上げられたとい</p>

	うことなので、次期の男女共同参画推進計画に期待したい。
会長	私も、性的指向だけではなく、「年齢の違い」に続く箇所について、「性別や性的指向・性自認の違い」としてはどうかと意見を寄せた。他の部分とのバランスということから「性の多様性」という表現に落ち着いたという事であるが、「性の多様性」が何を指しているのか、理解されにくいのではないかと感じている。若い人達の中では性的指向・性自認についての認識や意識が高まってきており、都内の区市町村においてもこの問題に対する取組が始められている。小平市の構えの問題ではないか。「性的指向や性自認」と出しても、違和感を持たれないような時代を小平市にも引き寄せてくるという事が重要ではないかと感じている。
委員	目指す将来像に向かって、小平市が12年間でどのように進んでいくのかがイメージでき、共感してもらえることが大切である。26ページでまとめた「めざす将来像」の「つながり、共に創るまち こだいら」は、小平市がこの方向で進んでいくんだということがイメージできた。非常にコンパクトで、子どもから大人まで覚えやすい。市議会特別委員会では、この「つながり、共に創るまち こだいら」に対して、どのような意見が出されたのか。
事務局	「つながり、共に創るまち こだいら」がどのように決まったのかというご質問をいただいた。素案(案)で示した3つの案を基に6月11日の審議会で各グループごとに話し合った結果、それぞれのグループが同じ様な結果を出したと説明をした。
委員	人と人とのつながりがどうあるべきなのか、人とのつながりの中から新しい価値が生まれて、その新しい価値がまた人とのつながりを育み、そしてまた更なる新しい価値を生み出していくようなことなど、審議会の中で様々に議論がされてきた。新型コロナウイルス感染症の関係でも、お店の方々が知恵を絞って、デリバリーの際には、配達の協力をしたりなど、様々な協力関係ができてきている。このような新しいつながりもまた、新しい価値へと結びついていくのではという事を考え合わせると、つながりという言葉はあらゆる意味を含んでいると感じた。小平市が人と人とのつながりを大切にしながら、より素晴らしいまちをみんなで作っていかうとするイメージが持てる将来像ができあがったと感じている。
委員	私の意見も皆さんの意見も反映されていて、本当に共に創り上げたという感じがしている。パブリックコメントに出す前の確認ということで気になる点として、5ページの「地勢」に対する市民の声で「自然災害が少ない」という事をあげているが、19ページでは近年の自然災害について取り上げており、小平市として自然災害が少ないというのを出すのはどうなのかと思った。
会長	「自然災害が少ない」に代えて、例えばどのような市民の声を上げるとよいただろうか。
委員	次ページでは「自然環境」としてまとめているが、例えば、周囲はグリーンロードで囲まれていることから、「観光するのによい」などそういった立地性に対する市民の声があるとよいと感じた。
委員	43ページの「各方針とSDGsのゴールの関係」について、例えばゴール1の「貧困

	<p>を無くそう」に関して、方針1の「全ての子どもの育ちと自立を支援する」が関連するのは理解するが、方針5の「地域の絆で支えあう」は関連するだろうか。またこの様式について、SDGsの各ゴールに対して第四次長期総合計画の9つの方針と関連する枠内に丸が付されている。前回の6月11日の審議会で提示された素案（案）では、第四次長期総合計画の9つの方針に対して関連するSDGsのゴールのアイコンが示されるという様式であった。以前の様式の方がよいのではと思った。</p>
事務局	<p>今後市の職員と大学生との連携で、第四次長期総合計画の概要版を作っていくことを予定している。その中で、SDGsについても学びながら、小平市としての示し方を検討していきたい。</p>
委員	<p>私も意見を事前に出したが、それを反映していただいた。序論のところ、市民の声が吹き出しで示されており、これが非常に分かりやすく工夫されていると思った。素案を説明する動画も拝見したが、同様に工夫されている。実際のパブリックコメント用の素案はカラーで作るということでよいか。</p>
事務局	<p>市のホームページやLINEではカラーで提示する。公共施設に閲覧用として配架する素案は白黒になる。</p>
委員	<p>閲覧用もカラーにできるところはカラーにされるとよいのでは。43ページの各方針とSDGsのゴールの関係については、丸が少ないところがあるがどうなのだろうか。確かにゴール14の「海の豊かさを守ろう」については、小平市には海が無いからこれはできないということになるのかと思うが、ゴール9の「産業と技術革新の基盤をつくろう」や、ゴール12の「つくる責任つかう責任」など、丸がもう少しについてもよいのではないか。</p>
会長	<p>海がなくても、例えばプラスチックゴミを減らすためにレジ袋をもらわないとか、海に悪い影響を与えない活動が熱心に行われることによって、海の豊かさにつながるということからも、小平市にとっても必要な視点である。</p>
副会長	<p>これまで、審議会委員の皆さんから多くの意見を出していただいた。計画を策定していくプロセスとしては大事なところであったと感じる。自信を持って、パブリックコメントに出せる素案となったのではないかな。</p>
会長	<p>審議会委員の皆さんには御意見を活発に出していただき、さらには表現や字句も含め一生懸命校閲の作業をしていただき、その姿に感銘を受けた。これまでも、会議以外にもメールなどを通して事務局にご意見を寄せていただいたということである。素案としてまとめ、感謝申し上げます。今後実施するパブリックコメントも踏まえ、最終的に整えていくことになるので、引き続きよろしくお願いいたします。</p>
閉会	